

公開特許公報

昭53—35539

⑤Int. Cl.²
B 41 J 3/00
H 04 N 1/24

識別記号

⑥日本分類
103 K 0
97(3) C 35

庁内整理番号
6773—27
6538—59

④公開 昭和53年(1978)4月3日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑤④インクジェット式カラー印写装置

②特 願 昭51—109697

②出 願 昭51(1976)9月13日

⑦発明者 駒井博道
東京都大田区中馬込1の3の6
株式会社リコー内

⑦発明者 岩崎久八郎
東京都大田区中馬込1の3の6
株式会社リコー内

⑦出願人 株式会社リコー
東京都大田区中馬込1の3の6

⑦代理人 弁理士 樺山亨

明 細 書

発明の名称 インクジェット式カラー印写装置
特許請求の範囲

カラー画像を印写する本体と、この本体で印写したカラー画像の光沢を光沢液で増大させる装置とを具備し、この装置により鮮明なカラー画像を得ることを特徴とするインクジェット式カラー印写装置。

発明の詳細な説明

本発明はファクシミリなどに使用されるインクジェット式カラー印写装置に関する。

従来、インクジェット式カラー印写装置において染料を利用したインクで印写したカラー画像は顔料を利用したインクで印写したカラー画像に比べて光沢が不足してあざやかさに欠けることが指摘されており、これはカラー原稿のもつ幅広い色を忠実に再現する場合の重大な欠点の一つになっている。

本発明はこのような点に鑑み、鮮明なカラー画像を得ることができるインクジェット式カラー印

写装置を提供しようとするものである。

以下図面を参照しながら本発明の一実施例について説明する。

例えばファクシミリにおけるドラム回転走査型のインクジェット式カラー印写装置において、記録側ドラム1、リードスクリーン2、インク噴射ヘッド3～5、モータ6により本体が構成され、かつ光沢液噴射ヘッド7が設けられる。記録側ドラム1には記録紙8が巻き付けられ、記録側ドラム1が駆動装置により回転駆動されて主走査が行われる。インク噴射ヘッド3～5及び光沢液噴射ヘッド7はリードスクリーン2上に設けられ、リードスクリーン2がモータ6で回転駆動されることによりリードスクリーン2上を移動して幅走査が行われる。インク噴射ヘッド3～5はファクシミリの読取り部における読取りヘッドと同期がとられ、この読取りヘッドからのカラー面信号により3種類の色、例えばイエロー、マゼンダ、シアン(あるいはブラックを含む)のインクをそれぞれ記録紙8上に噴射してカラー画像を形成する。

この時、インク噴射ヘッド3～5は遅延回路によるカラー画信号の遅延により記録紙8上の同じ点に3種類のインクを噴射してカラー画像を形成する。光沢液噴射ヘッド7はインク噴射ヘッド3～5と同一構造をもつものでもよいし、又従来、よく知られている霧吹き等によるスプレー方式とすればさらによい結果が得られる。ただし、スプレー方式の場合には間欠的に光沢液のスプレーを行うことが必要となるが、これは電気的な記録側ドラム1の回転位置及び副走査方向位置の検出とその出力で電磁弁等により光沢液のスプレーを制御することにより可能である。光沢液噴射ヘッド7はこのように光沢液を記録紙8上に噴射してカラー画像の光沢不足を補い、あざやかなカラー画像を得る。この場合、光沢液は鉛筆、クレパス、水彩絵具等の画像の定着、耐水性向上、泣きどめ防止などの目的で使用されている公知の定着液が用いられる。したがって、光沢液噴射ヘッド7で連続的又は間欠的に定着液が記録紙8上に噴射されることにより色彩効果の向上したカラー画像を得

ることができるだけでなく、カラー画像の耐水性向上等が実現される。

なお、本発明は顔料を利用したインクを用いるインクジェット式カラー印写装置に適用してカラー画像の色彩効果の向上、耐水性向上などを図ることも可能である。

以上のように本発明によるインクジェット式カラー印写装置によれば印写カラー画像の光沢を光沢液で増大させるので、色彩効果の向上したあざやかなカラー画像を得ることができ、又光沢液として定着液を用いればさらに耐水性の向上などの効果が得られる。

図面の簡単な説明

図は本発明の一実施例を示す正面略図である。

1…記録側ドラム、2…リードスクリーン、3～5…インク噴射ヘッド、6…モータ、7…光沢液噴射ヘッド、8…記録紙。

代理人 樺山

亭

